



環境活動報告書

2020年度
〔対象期間：2020年6月～2021年5月〕

2021年7月31日作成

AminoUp

目次

1. 組織の概要、対象範囲

2. 環境方針

基本理念

環境方針

3. 環境システム実施体制

4. 環境目標

5. 環境活動計画

CO₂排出量の削減、省エネルギーの推進

廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理

水道使用量の削減・適正利用など

6. 環境活動の紹介

太陽光発電システム

雪冷房システム

地中採熱

雨水利用システム

地下水水冷却システム

廃熱回収システム

ダブルスキンシステム

道産材の活用による地産地消の取組み

生物多様性への配慮

環境性能評価結果

7. 環境目標の実績

取組み結果

今後の取組み

8. 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組

9. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 組織の概要、対象範囲

1. 事業者名及び代表者氏名

株式会社アミノアップ

代表取締役会長 小砂 憲一

代表取締役社長 北舘 健太郎

2. 所在地

北海道札幌市清田区真栄 363 番地 32

TEL: 011-889-2277 (代)

FAX: 011-889-2288

3. 事業内容

- ・バイオテクノロジー（微生物大型タンク培養法）による植物生育調整物質、担子菌由来抽出物等の製造及び販売。
- ・天然物由来の生理活性物質の開発・製造及び販売。
- ・タンク培養、生理活性物質抽出の技術を用いた試験製造。
- ・天然由来の農業資材、食品添加物、健康食品素材、医薬品原料の生産。

4. 事業の規模

資本金 3億6千9百万円

	単位	2018年度	2019年度	2020年度
主要製品生産量	t	39.4	38.9	51.7
売上高	百万円	2,453	2,821	2,901
従業員	人	88	90	102
床面積	m ²	11,986	11,986	11,986
敷地面積	m ²	51,559	51,559	51,559

5. 対象施設

本社、工場、研究所

6. 対象事業

上記3. の全ての事業

7. レポートの対象期間、発効日

対象期間：2020年6月～2021年5月（2020年度、第37期）

発効日：2021年7月31日

2. 環境方針

環境経営方針

【基本理念】

株式会社アミノアップは、健康に携わる企業として、人々の健康を願い、地球環境の保全と豊かな社会の実現を目指し、全従業員の心をひとつにして日々努力し行動します。

【環境方針】

株式会社アミノアップは、北海道の恵まれた自然環境の中で、独自の技術によって研究・開発を行う健康食品メーカーです。私たちは環境関連法規を遵守し、環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、持続可能な世界実現に向け取り組みます。

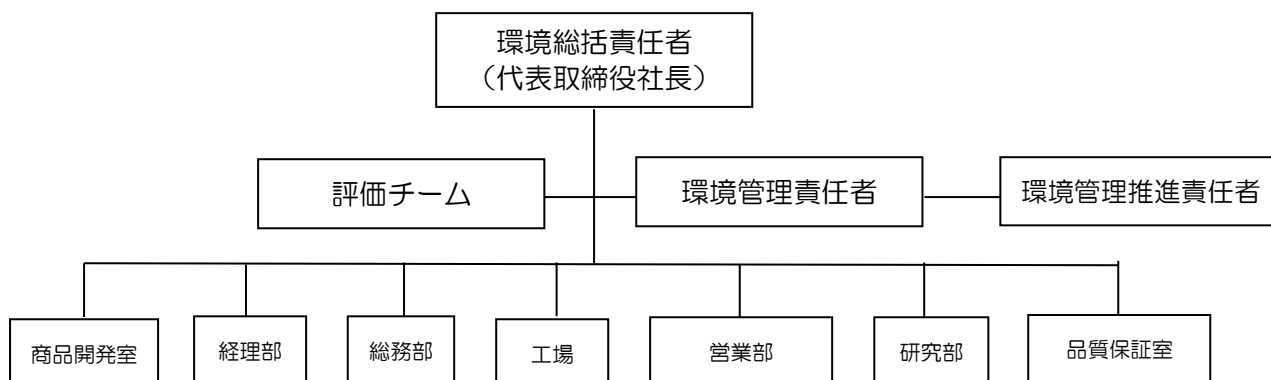
1. 環境関連法規を遵守します。
2. 事業活動において、二酸化炭素排出・廃棄物・排水量の低減に取り組みます。
3. 環境負荷の最大要因である工場に伴うエネルギー消費削減に取り組みます。
4. リサイクルに積極的に取り組みます。
5. 天然資源の有効利用、および資源消費の削減に努めます。
6. すべては地球環境の保全につながることを認識し、行動に努めます。
7. この環境方針を、従業員に周知し、環境教育を徹底します。そしてこの取り組みを社会へ発信し続けます。

平成22年10月 1F制定
2020年 5月26日改定
株式会社アミノアップ
代表取締役社長

北館 健太郎

3. 環境システム実施体制

当社の環境活動は、次に示す実施体制のもとで進められます。



環境総括責任者 (代表取締役社長) 北館 健太郎	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を策定する。 環境目標及び環境行動計画を承認する。 環境経営システムの構築及び運用、環境目標及び環境活動計画の実施に必要な資源（人・物・財務的資源）を用意する。 環境管理責任者を任命する。 環境目標の達成状況について報告を受け、必要な場合は改善等を指示する。 環境経営システム及び環境方針の見直しを行う。
環境管理責任者 (取締役副社長) 工藤 仁	<ul style="list-style-type: none"> 推進責任者に環境負荷の自己チェック及び取組の自己チェックの実施を指示し、その結果を審査し承認する。 推進責任者に環境目標の設定を指示し、その結果を審査し承認する。 3ヶ月毎に、各部室の環境目標の達成状況について報告を受け必要場合は問題点の是正を指示する。 環境経営システムの構築及び運用、結果の総括責任者への報告。
環境管理推進責任者 大鋸 孝司	<ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施を行いその結果を点検し、環境管理責任者へ報告する。 各担当者と協議、環境目標の設定・活動計画を決め環境管理責任者に報告する。 自社の業務に関わる法規制を調査し明確にする。 自社が守るべき法律や条令などをリストアップし、従業員に周知徹底を図る。 定期的に見直しを図る。 環境関係法令の点検をする。
環境委員（7名） 各部署 1名	<ul style="list-style-type: none"> 3ヶ月毎に、各部室の環境目標の達成状況についてその結果を環境管理責任者に報告する。 各部室の環境目標達成の為の取組を行う。 環境推進チーム打合せの参加と各部室へ情報伝達を行う。
評価チーム 部室長（2名以上）	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムの実施状況について評価する。 評価内容を経営者へ報告する。

4. 環境目標

環境目標

2020(H32/R2)年度

項目	基準		目標(短期)		基準		目標(中期)	
	(2019年度) 値		前年度比		2015年度値	前年度実績値	2015年度比	
CO ₂ 排出量	50,773	kg-CO ₂	-1%		63,708	-20%	-23%	
削減項目 エネルギー投入量 化石燃料	購入電力	31,751	KWh	-1%	36,717	-14%	-17%	
	灯油	0	L	-1%	236	-100%	-100%	
	A重油	8,377	L	-1%	9,619	-13%	-16%	
	都市ガス	0.90	m ³	-1%	1.24	-28%	-31%	
	LPG	2,812	kg	-1%	4,090	-31%	-34%	
	ガソリン	8,910	L	-1%	3,775	136%	100%	
	軽油	284	L	-1%	571	-50%	-53%	
上水の使用量※	575	m ³	-1%		587	-2%	-5%	
廃棄物の排出量	0.58	t	-1%		0.80	-28%	-31%	
主要製品生産量	38.9	t			27.4			
食品循環資源の再生利用等の実施率			95%以上					

※灯油、ガソリン、軽油以外は原単位（主要製品生産量）換算値とする。

※上水=市水+地下水



5. 環境活動計画

本事業所において、以下の活動を継続的に実施します。

CO₂排出量の削減、省エネルギーの推進

1. 購入電力削減

※当社は、政府の電力需給対策に則り、全事業活動において節電を実施してまいります。

＜全社共通の取り組み＞

- ・照明関係：①従業員の安全確保を前提のもと、照明は基本全て消灯とする。
 - ②点灯時は必要最小限の明るさとなるよう、蛍光灯の間引きをする。
 - ③点灯頻度の高い照明は高効率照明機器の交換導入をする。
- ・空調関係：④室温設定の見直し。
 - ⑤外気温が低い場合、外気冷房（換気）を利用する。
- ・PC関係：⑥省エネ設定「スリープ状態（スタンバイ）」を利用、90分以上使用しない場合は電源をOFFとする。
 - ⑦モニターの輝度調整を行い、画面の明るさを40%以下へ変更する。
 - ⑧離席時モニター電源OFFの徹底。「ディスプレイの電源を切る」設定を利用し、電源切り忘れ時の対策をとる。

＜設備機器設置部署の取り組み＞

- ・機器関係：⑨機器の設定変更や使用回数削減により消費電力を減らす。
 - ⑩冷蔵庫やフリーザー内の整理にて冷却効率を上げ消費電力を減らす。

＜需給逼迫時を想定して、次の対策を準備＞

- ・対策①：空調部分停止
- ・対策②：生産のシフト体制（夜間、休日勤務等）
- ・対策③：一部生産工程（濃縮、凍結乾燥）の夜間、休日への移行

2. ガス、重油、灯油の使用量削減

- ・ロードヒーティングボイラーの運転停止（継続）
- ・ボイラーの効率的な利用（台数制御、低燃焼運転、運転開始条件設定）
- ・ボイラー設備の見直し（重油焚き→ガス焚き等）

3. ガソリン、軽油使用量削減

- ・エコドライブ指導
- ・除雪機運転の効率化

4. 紙類使用量の削減

- ・再生紙の使用
- ・なるべく裏紙を使用
- ・PCからの印刷時の印刷プレビュー画面での確認

廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理

1. 一般廃棄物排出量 産業廃棄物排出量削減

- 分別の細分化、特に廃プラスチック類の分別強化
- 従業員教育
- ゴミ室の整理整頓と分別ごとの明確な表示
- 処理業者の管理、記録の管理

2. 再生利用等実施率の向上

- 廃油回収、古紙回収、インクカートリッジ回収
- 回収業者の管理、記録の管理

水道使用量の削減・適正利用

1. 節水

- 湯、水の出し放し禁止
- 地下水、雨水の有効利用

その他

1. グリーン購入の実施

- 包材、資材、事務備品の見直しによる低環境負荷製品への転換
- 購入数量の見直し

2. ゴミの分別

- 段ボール、古紙、OA紙、ペットボトルのキャップ、割り箸等の分別を実施
- インクカートリッジの回収、金属類、廃プラスチック類、リサイクル率向上の取り組み

3. 環境関連法規の遵守確認

- 環境関連法規確認と、自部門の業務を照合
- 従業員への周知

4. 苦情対応

- 環境苦情・要望を受けた部門は手順どおりの対応により速やかに改善を図る

6. 環境活動の紹介

太陽光発電システム

太陽光発電システム（10kw）を設置しています。発電した電力は全てエコハウス棟共用部にて消費しています。

2020年度発電実績	10713kwh
------------	----------

雪冷房システム

冬期間（12月～3月）敷地内に降り積もった雪を貯雪庫へ貯め込み、夏期間（6月～10月）のエコハウス棟冷房冷熱源として利用しています。貯雪容量は150～200t。また融解水は水槽に貯蔵され、床冷房の冷熱源にも利用しています。

地中熱採熱システム

①クール&ヒートトレンチ

地中内に直径90cm、長さ40mのチューブを埋め、ここに外気を取り込み、地中熱を利用して夏は冷却、冬は暖められた空気を建物に供給しています。

②地中熱ヒートポンプ

地下85mまで延びた採熱管が6箇所設置され、そこを液体が通ることで採熱、さらにヒートポンプによって温調され、床冷暖房に利用しています。

雨水利用システム

エコハウス棟のトイレ洗浄水は全て雨水を利用しています。

地下水冷却システム

工場内で使用される機器の冷却や、作業室内の冷房の熱源は地下水を利用しています。年間を通し8℃前後地下水が安定的に供給されます。

廃熱回収システム

工場で利用された排蒸気や高温排水は蓄熱槽へ運ばれます。ここで貯めた熱を給湯や駐車場ロードヒーティング等に再利用しています。

ダブルスキンシステム

エコハウス棟の壁面は1m程の空間を設けたガラスの二重構造となっています。この空間を利用し輻射熱を夏期間は室内の温度上昇を防ぎ、冬期間は室内の保温効果を高めています。

道産材の活用による地産地消の取組み

建物に使用している木材等は地元である北海道で加工された物です。地産地消への取組みにより、材料運送時に排出されるであろうCO₂の発生抑制に貢献しています。

生物多様性への配慮

会社周辺の動植物に関する調査を行い、実態を把握するとともに、敷地内に本来あるべき植生を作るなど、動植物と共存するための取組みを行っています。

環境性能評価結果

エコハウス棟ならびにAHCC棟は建築物環境配慮制度（CASBEE札幌）において、最上位であるSランクを取得しています。

7. 環境目標の実績

実績（原単位（主要製品生産量）換算値表）

短期目標 実績

2020(H32/R2)年度

項 目		基準		実 績				
		(2019年度) 値		実 数	増減率	目 標	達成状況	
削減項目	エネルギー投入量 化石燃料	CO ₂ 排出量	50,773 kg-CO ₂	#	44,204	-13%	-1%	達成
		購入電力	31,751 KWh	#	18,777	-41%	-1%	達成
		灯油	0 L		0	#DIV/0!	-1%	—
		A重油	8,377 L	#	25,147	200%	-1%	未達成
		都市ガス	0.90 m ³	#	0.83	-8%	-1%	達成
		LPG	2,812 kg	#	3,145	12%	-1%	未達成
		ガソリン	8,910 L		5,934	-33%	-1%	達成
		軽油	284 L		1,355	377%	-1%	未達成
		上水の使用量※	575 m ³	#	479	-17%	-1%	達成
		廃棄物の排出量	0.58 t	#	0.29	-51%	-1%	達成
主要製品生産量		38.9 t		51.7				
食品循環資源の再生利用等の実施率				98.90%		95%以上	達成	

<電力の二酸化炭素排出量係数は、北海道電力 2019年実績値を使用：0.601kg-CO₂/kwh>

<達成状況について>

- 主要製品生産量が2020年度51.7tと前年比約33%増であった。
- 前年コーゼネ発電機故障により燃料となるA重油消費が少なかったが、2020年度は通常稼働に戻ったため消費量が増となった。
- 灯油は消費目的削減のため購入実績なし。
- ガソリンはコロナ禍による営業活動の縮小で商用車利用頻度が下がり消費減となった。
- 軽油は冬季除雪用重機のための燃料使用で豪雪の日にちが多く稼働時間が増えた。

中期目標 実績

2020(H32/R2)年度

項 目		基準		実 績					
		(2015年度) 値	単位	実 数	増減率	目 標	達成状況		
削減項目	CO ₂ 排出量	63,708	kg-CO ₂	44,204	-31%	-23%	達成		
	エネルギー投入量	化石燃料	購入電力	36,717	KWh	18,777	-49%	-17%	達成
			灯油	236	L	0	-100%	-100%	達成
			A重油	9,619	L	25,147	161%	-16%	達成
			都市ガス	1.24	m ³	0.83	-33%	-31%	達成
			LPG	4,090	kg	3,145	-23%	-34%	未達
			ガソリン	3,775	L	5,934	57%	100%	達成
			軽油	571	L	1,355	137%	-53%	未達
			上水の使用量	587	m ³	479	-18%	-5%	達成
	廃棄物の排出量	0.80	t	0.29	-64%	-31%	達成		
主要製品生産量	27.4	t	51.7						

<電力の二酸化炭素排出量係数は、北海道電力 2019年実績値を使用：0.601kg-CO₂/kwh>

<達成状況について>

- LPGは想定通りの削減とならなかった。
- 軽油は基準年時と消費する機械が変更（中型除雪機➡ホイールローダー）になり消費比較はできない。

8. 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組

原単位：主要製品生産量 2019(H31/R1)年度 38.9 t
2020(H32/R2)年度 51.7 t

取組結果と評価

1. CO2 排出量

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
排出量(t-CO2)	1975.0	2285.3	+15%
原単位排出量(t-CO2)	50.7	44.2	-13%

主要製品生産量増により、排出量増・原単位排出量減の結果となった。

2. 購入電力の削減

	前期(H2019年度)	今期(2020年度)	増減率
購入電力量(kwh)	1235128	970769	-21%
原単位購入電力量(kwh)	31751	18777	-41%

前期、発電機(コージェネレーション)の故障による稼働停止期間があり購入電力量増となったが、今期は想定通りの発電機稼働となり購入電力量が下がった。生産量増加により効率が上がり原単位換算では大きな削減結果となった。

※電力の二酸化炭素排出量係数:北海道電力2019年実績値を使用:0.601kg-CO2/kwh

3. 灯油の削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
購入量(L)	0	0	±0%

※原単位に関係しないエネルギー(農場事務室用暖房燃料として使用)
ホームタンクへの給油量実績なしであった。

4. 軽油の削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
購入量(L)	284	1355	377%

※原単位に関係しないエネルギー(除雪機燃料として使用)
大型ホイールローダーによる除雪運用と降雪日が多かったことが大きな増となった。

5. 重油の削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
消費量(L)	325873	1300098	+298%
原単位消費量(L)	8377	25147	+200%

前期、発電機（コージェネレーション）の故障停止により燃料である重油の消費が減であったが今期は想定通りの発電機稼働となり燃料としての消費が例年ほどに回復となった。

6. LPGの削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
消費量(kg)	109387	162592	+48%
原単位消費量(kg)	2812	3145	+12%

製品 AHCC 生産量増により消費量は増加となった。生産工程が過密となり、加熱・冷却にかける時間を短縮する傾向となり、加熱熱源となる蒸気の使用量が増え消費増となったと考えられる。安定在庫が確保される状況が見えるにつれ原単位消費量は下がってくると思われる。

7. 都市ガスの削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
消費量(N m ³)	35	43	+22%
原単位消費量(N m ³)	0.9	0.8	-8%

生産量増加に伴い検査点数が増えるため消費増となる。原単位増減率は誤差の範囲内。

8. 上水の使用量・排水量の削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
消費量(m ³)	22374	24745	+10%
原単位消費量(m ³)	575	479	-17%

生産量増より消費量増であった。

※上水＝市水+地下水

9. 廃棄物の排出量の削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
廃棄量(t) (うち食品廃棄)	11.96(3.39)	10.82(1.02)	-9%
原単位廃棄量(t)	0.31	0.21	-32%

<食品廃棄物再生利用等の実施率>

発生量：92.64 t

再生利用料：91.62 t（食品廃棄物としての処分量 1.02 t）

再生利用等の実施率：98.9%

※食品廃棄物として使用期限の切れる原材料を除却した。

10. ガソリンの削減

	前期(2019年度)	今期(2020年度)	増減率
購入量(L)	8910	5934	-33%

※原単位に関係しないエネルギー（営業車燃料として使用）

コロナ禍により原料調達、客先訪問等営業活動の自粛により消費減となる。

次年度も継続してエコドライブ教育を行い啓蒙に努める。

11. エコハウス棟 CO2 削減

エコハウス棟年間 CO2 排出量 178 t（※）

CO2 削減目標 60%以上

年間 CO2 排出量 (t)	CO2 排出量(t)	CO2 削減量(t)	削減率
178	56	122	68%

※一般ビル（床面積 2000 m²）年間 CO2 排出量

（日本サステナブル建築協会データベースおよびエネルギー白書より）

※エコ棟電力の二酸化炭素排出量係数は 0.649kg-CO₂/kwh

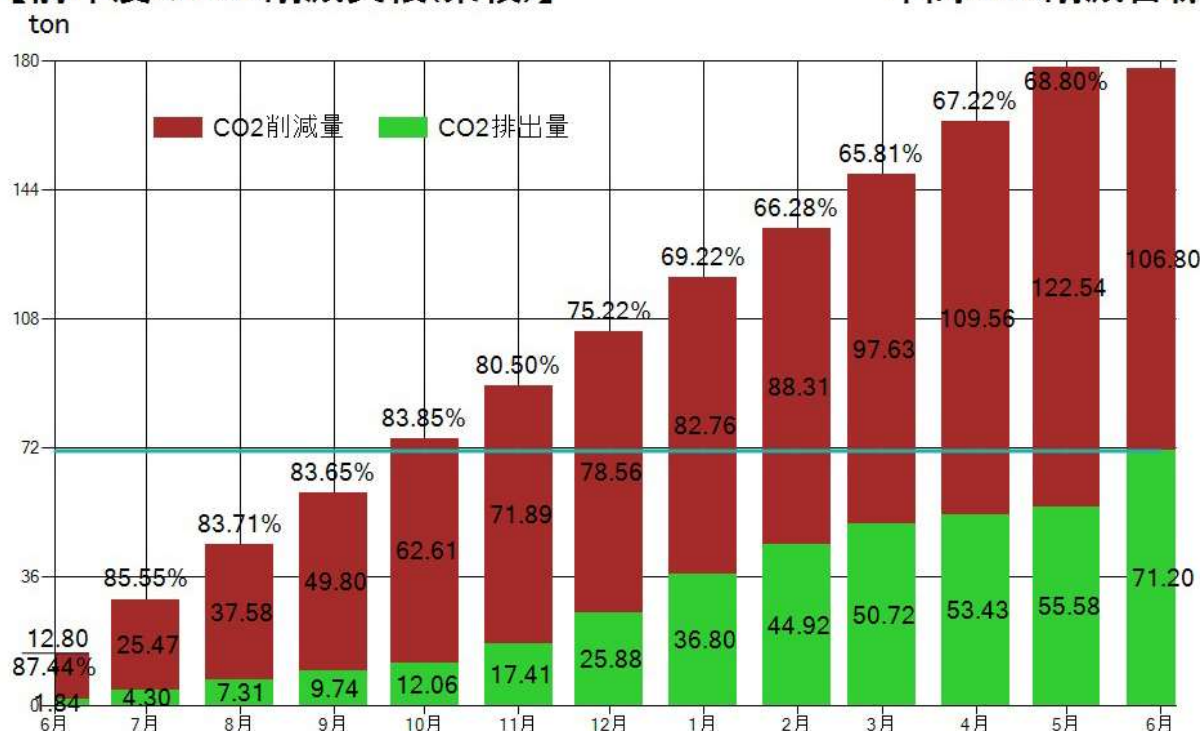
①北海道電力 2019年実績値：0.601kg-CO₂/kwh

②弊社コージェネレーションシステム実績値：0.685kg-CO₂/kwh

北電電力量：発電機電力量=42：58 より

【前年度のCO2削減実績(累積)】

年間CO2削減目標



次年度の環境計画

CO₂排出量の削減、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入検討

- 太陽光発電、風力発電、蓄電池等の導入に向けた情報収集
- 購入電力の削減
予定される計画停電に基づく製造工程の見直しを行い負荷の分散を図る
- 灯油の削減
灯油炊きロードヒーティング稼働停止を継続する
- 重油の削減
重油炊きロードヒーティング稼働停止を継続する
ボイラー台数制御の更なる最適化を見定める
ボイラー待機運転時間の短縮
暖房温度の設定を下げる
生産用ボイラーの燃料ガス化の検討
- 都市ガスの削減
適切な加熱、利用時間の集中化
検査業務における火炎操作の縮小改善
- ガソリンの削減
エコドライブの周知、効率的な営業・巡回活動
- 軽油の削減
除雪機の効率化（エコドライブ運転教育）
従業員での除雪作業を増やす
- 水道水の削減（使用水の削減）
地下水の有効利用
- 廃棄物の排出の削減
分別、リサイクル、購入量の見直し



緊急事態への準備及び対応

防災教育・消火訓練

火災発生時の初期消火と避難実施の見極め、初期消火時の消火器の操作・吹き付け方について指導を受けた。また、消火栓の操作説明及び取扱い、放水体験を受け、訓練を行った。



その他 環境コミュニケーション活動

他市町村、各種団体の社内見学会

当社施設は再生可能エネルギーの有効利用として、「太陽光発電システム」「雪氷熱利用システム」「地中熱利用システム」「日射熱利用システム」などを導入している。更に、社屋建設材料の地産地消の取組みや生物多様性への取組みなど、70の環境技術を実践している。これらの取組みについて各方面から評価を受け、北海道のみならず日本全国や海外から2,100人程の（H30年度）方が当社を訪れ、社内見学会を開催した。



従業員の社会貢献活動

私たちは地域の清掃活動や社会福祉行事の手伝いをはじめ、献血やスポーツ関連のコミュニティーなど、さまざまな社会貢献活動に参加することによって、自己啓発に努めます。

生物多様性調査活動

私たちは生物多様性へ配慮を最重要項目としています。その一環として四季を通し会社周辺の環境調査を行い、周辺動物の生息状況や周辺環境との融合を目指す取り組みを行っています。



9.環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。

関係機関から創業以来違反の指摘はありません。

訴訟の事実も過去3年間ありません。

適用法規	対象施設	対象内容	頻度・内容	遵守状況
下水道法	社内排水	排水の水質測定	外部検査 1回/月	遵守確認
大気汚染防止法	発電機	煤煙の濃度測定	外部検査 2回/年	遵守確認
水質汚濁防止法	燃料タンク	漏洩管理	外部検査 1回/月	遵守確認
廃掃法	産業廃棄物	分別管理	マニフェスト交付管理 収集伝票管理	遵守確認
リサイクル法	産廃処理場	管理処理場視察	回収 1回/年	遵守確認
食品リサイクル法	食品廃棄物	分別管理	発生抑制	遵守確認
容器包装リサイクル法	出荷製品	製品出荷量管理	届出 1回/年	遵守確認
消防法・条例	貯油貯蔵所	貯蔵管理	自主点検 1回/年 外部検査 1回/3年	遵守確認
高圧ガス保安法	冷凍機	運転管理	設置時届出 運転時点検	遵守確認
フロン排出抑制法	エアコン等	機器・冷媒管理	自主点検 4回/年	遵守確認
PRTTR法	実験室・ 燃料タンク	使用量管理	集計・申告 1回/年	遵守確認



10. 代表者の全体の見直し

1. 環境方針

環境方針変更なく継続とするが、今まで通りを良しとせず、全ての取組みについて最適性を見直し、行動に移すこと。

2. 環境関連法規

継続して改正等に注意を払い、法令順守の徹底を図ること。

3. 環境目標及び環境活動計画

食品リサイクル率は目標を達成し良い傾向である。引き続き受注量・購入量等を適切に管理し無駄な廃棄をおこさぬ様徹底すること。中期目標を工場主要エネルギーであるLPG利用開始年へ見直しを実施した。結果より改めて目標達成への取組みを構築すること。

4. 実施体制

継続的な取組みは理解しているが、新たな取組みが見えなかった。常に新しい情報・技術にフォーカスし当社への反映について考えること。組織的な取組みが不十分であり社内周知を含め全社的取組み体制を構築すること。

5. 緊急事態への準備及び対応

災害発生時緊急連絡訓練・社内避難訓練の実施を適切な間隔で実施するように。

6. その他

コロナ禍における社内環境整備を強化し、内部コミュニケーションが的確に行える社内設備の充実を図るように。

